

TTC 提案山行実施記録

2015年10月1日 報告者: ST (1/2)

山行名	八幡平#・岩手山# (百名山 2 座) [1613.3m/2038.2m 岩手県/秋田県]
実施日	2015年9月25日[金]~28[月] 往復高速夜行バス+現地1泊2日 現地移動:レンタカー利用
天候/ レベル/参加人員	天候: 9/26:曇のち雨、9/27:晴のち曇一時雨 レベル:★★★☆(かなり健脚向き) 参加者:申込名10名/実施10名(男性5名、女性5名)
パーティスタッフ	GL/計画: SL: 会計: 救護: 写真: ドライバ 1:、ドライバ 2: スタッフ名削除
参加メンバ	☆ ☆ 参加者氏名削除 ☆:班長
費用 28,750 円/人 TTC カンパ金: 127 円	[内訳]【交通費】夜行バス(本厚木~盛岡)往復:@14,450*10名=¥144,500、レンタカー会員登録:¥1,080、レンタカー(1BOXタイプ)*2日間:¥22,480、レンタカー(2000cc未済タイプ)*2日間:¥13,800、運転手謝礼:@5,000/2*2台*2日=¥10,000(通常の半額)、高速道路代(盛岡IC~松尾八幡平IC):@670*2台=¥1,340、燃料代:=¥4,483、タクシー(盛岡駅~開運の湯4台分):¥2,960【宿泊代】温泉民宿ぱどっく:@7,000*10名=¥70,000(弁当代:@500含む)【その他】開運の湯(入湯料+食事代:@1,523*10名=¥15,230、通信費:¥1,000、カンパ金:¥127 合計:¥287,500 ⇒ 一人当たり¥28,750

歩行時間 /行動時間		9/26[土] 八幡平			9/27[日] 岩手山		
		歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
	ガイドブック	3:10	-	-	7:40	-	-
	計画	3:25	1:10	4:35	8:30	2:15	10:45
	実績	3:18	1:10	4:28	7:34	2:53	10:27

実行コースタイム記録

(朝食)	(車をピストン輸送) 40'	7'	8'	(昼食) 34'		
本厚木駅北口③番=====盛岡駅⑭番=====レンタカー会社=====茶臼登山口-----茶臼山荘-----茶臼岳-----茶臼山荘-----						
9/25 21:00 集合-21:25 9/26 6:35-7:45 8:00-8:25 9:30-10:00 10:40 10:47-52 11:00-39						
25'	36'	15'	33'	(車をピストン輸送)		
---黒谷地湿原-----安比岳分岐-----稜雲荘避難小屋-----八幡平山頂-----八幡平レストハウス-----温泉民宿ぱどっく						
12:13-17 12:42 13:18-35 13:50-55 14:28-15:00 15:30						
(朝食)	7'	56'	34'	49'	50'	8'
温泉民宿ぱどっく=====馬返し登山口---鬼又の水---(休憩4')---1合目---3合目---5合目---鉾立(7合目)---8合目避難小屋---						
9/27 4:00 起床-5:06 5:55-6:03 6:10 7:10-16 7:50-57 8:46-9:00 9:50-10:02 10:10-33						
14'	34'	(昼食) 35'	10'	59'	38'	(雨具着用含む) 55'
---9合目---薬師岳山頂---9合目---8合目---5合目---(休憩12')---2.5合目---(休憩10')---鬼又の水---						
10:47-51 11:25-12:05 12:40 12:50-13:11 14:10 15:00 16:05-25						
---馬返し登山口=====開運の湯=====盛岡駅=====本厚木駅						
16:30 17:20-9:30 9:40-10:10 9/28 7:10						

コースの概要、特記事項、反省事項等

東北の日本百名山2座を紅葉初期に訪ねる計画を設定した。盛岡まで新幹線利用で快適に移動することについて検討したが、“深夜高速バス”は費用面で格安であり、またお膝元の本厚木駅~盛岡駅まで寝ている間に直接運んでくれるという利便性を考慮すると圧倒的に有利であることから捨てがたく、こちらを利用することにした。金曜日の夜の出発であり、仕事を持っておられる方は特に、バスでの睡眠を取ることができないと翌日の歩きに影響が出る可能性があることを考慮し、“優しい八幡平”を一日目の設定とした。現地での移動は小回りの利くレンタカーを活用し、ネット情報から小洒落た民宿を探して、全般的に格安の山行を計画することができた。

この山行の大きな特徴は、KEさんの日本百名山の99座目および100座目登頂に当たり、“完登達成のお祝い”を基軸に設定したことである。達成間近であることは昨年度から話題になっており、「百座目は私が計画してお祝いしたい!」というような話をご本人に持ちかけて15年度の年間山行計画に落とし込んだが、この山行までに98座を完全に終わらせていなければこの構想は脆くも崩れ去るというリスクがあった(この時点で、八幡平・岩手山を除いて北海道の4座が未踏の状態であった)。言うまでもなく全ての山行は天候など自然状態に左右されるし、ご本人の当日の体調とか、公共交通機関のトラブル等で足止めを食うこともあるというようなことを考えると、構想通りに事が運ぶ可能性はそんなに高くはないかもしれないという気がしていた。しかしながら、何と言ってもご本人のUltra-Superレベルの努力の積み重ねに運も味方につけられて、「事前の98座を無事に終えた」との報告をいただいたので、TTCメンバでは17人目の快挙達成(男性:6名、女性:11名)を参加メンバでささやかながらでもお祝いすべく、実施日近くになってHMさんに相談して、チョットしたサプライズの仕掛けをいくつか用意した。

9/25[金] 定刻通りに全員が、本厚木駅北口のバス停に集合し、深夜高速バスの車上の人となる。このあと町田、横浜を経由して満席となり、順調に盛岡駅に向かった。

9/26[土] 曇のち雨 定刻より早く盛岡駅に到着。予約していたレンタカー会社が開くまで1時間半ほどあり、朝食を摂ったり、荷物整理を行なったりしながら万端備えた。本日目指す八幡平の茶臼登山口までは車で1時間ほどの道のりで、途中の曲がりくねったドライブウェイでは想像していた以上の黄色をベースとした紅葉に歓声を揚げながらテンションが

徐々に上がっていくが、今にも泣きだしそうな空模様で多少降られることは覚悟しなければならぬと思われた。(2/2)

登山口到着後、下山口に車1台をピストン輸送してから計画通りの時間の出発となった。八幡平山頂までの登りは累積でも400分ほどであり楽々だが、それでも茶臼山荘(避難小屋)までは登りが続き、多少息が切れる。小屋から15分もあれば往復できる茶臼岳は、好天であればパノラビューが期待できるはずだが、本日の空模様では全く見通すことができなかつた。このころから小雨が降り出し、このあと屋根があつて休める所はかなり先までないことから、計画を変更して少し早目の昼食をこの山荘で摂ることにした。避難小屋は(翌日に利用する岩手山の避難小屋も含めて)全てトイレ完備の素敵な小屋ばかりで、地元の有力な観光名所の1つとして力を入れている様子が伺えた。黒谷地(クロヤチ)湿原、源太森(ゲンタモリ)を経て山頂までは高原ハイキングを楽しむことができ、一面に広がる草モミジと池塘が心を和ませてくれ、翌日の1400分の標高差をカバーしなければならぬ岩手山トレッキングに向けての良い足慣らしにもなった。

ネットで調べて予約した宿は自前の温泉が湧き出ることを売りとし、口コミ情報で料理の評判の良い“温泉民宿”で、素敵なお客が迎えてくれた。この日は私達10名のみのお貸切りで、広い3部屋をあてがっていただいた。温泉にゆっくり浸かっても夕食までにはタプリー時間があり、直ぐにミニ宴会に突入。夕食は心のこもった豪華な料理が並び全員が完食し、これにKEさんの百名山完登の前祝としてサプライズで用意した13号(直径39cm)ケーキでお祝した。

9/27【日】 晴のち曇一時雨 5時の早朝出発に対応いただき朝食を4:30に準備して頂いて、今回のハイライトである岩手山に向けていざ出発。全員が500円のお弁当をお願いしたが、これも含めて7,000円/人と割引サービスもあり、次回利用する機会があれば、お薦めしたい宿であった。

馬返し登山口は広々とした駐車場があり、6時前に到着すると既に結構な数の車が止まっていた。7分ほど歩くと“鬼又の水”でコンコンと水が湧き出ている。しばらく進んだところから7合目までの間は旧道と新道の2コースがあり、旧道は急峻な露岩帯があるコースで、場所によって視界が広がって紅葉を楽しむことが期待できることから、往路はこのコースを取ることにした。なかなか歩き手のあるコースでゆっくり歩を進めたが、登りに使えば特に危険を感じる所はない。7合目の旧道と新道の合流点(鉾立)を過ぎると歩きやすい登山道となり、8合目の避難小屋で1杯100円のセルフサービスコーヒで英気を養って、もうひと踏ん張り頂上を目指すのみである。9合目を過ぎてお鉢巡りの取り突きに出たところで本日の主役のKEさんに先頭を歩いてもらい、露払いと太刀持ち役にHMさんとMTさんの女性陣をお願いして、いよいよ最後の百座目の登頂となる。ここまで、CLとして気を使ってゆっくり目で歩いてきたつもりでいたが、先頭を交代するとKEさんの足取りが軽くスピードがどんどん上がっていく。ゆっくり噛みしめるように歩けばと思うのだが、きっとはやる気持ちを抑えることができないのであろう。コツコツと積み上げてこられた努力を思うと、こちらまで感動でこみ上げてくるものがあった。山頂ではお祝いの気持ちをブーケに込めてお渡しし、娘さんとお孫さんが準備してくれたという2種類の手づくりの幟(のぼり)を掲げて何枚も写真に収まって、参加メンバーも嬉しい感動の気持ちをお裾分けしていただいた。

下山はそのままお鉢を時計回りに一周して、7合目からは新道ルートで降りた。旧道と比べると露岩はほとんどなく通常の登山道で歩きやすいが、樹間歩きとなるため視界はあまり広がらない。ここまでずっと良い天気だったのに5合目を過ぎて暫らく行った辺りで突然に遠雷と共に俄かに掻き曇り、ポツリと来たと思ったら強雨となった。20分位して雨が上ると虹が出て、この虹でお祝いするために少しの雨をわざわざ降らせたのかと善意に受止めることにした。

下山後、車で小1時間も走ると盛岡市内に入り、お風呂と食事で利用予定の“開運の湯”に到着。深夜高速バスの時間まで4時間以上のんびりどできる。予約不要と勝手に判断して手を打っていなかったが多くの客でごった返しており、そこにリュック等の大荷物を持った10名が突然に飛び込むとやや困惑ぎみの様子であった。それでも食事付きのコースをお願いすると10名がゆったりと入ることができる座敷を準備いただいた。大きなお風呂で汗を流してサッパリしたところで食事の準備が整い、何回目になるのであろうか、またしてもお祝いムードとなって楽しい話題に花を咲かせた。

9/28【月】 盛岡駅を定刻に出発したバスは、本厚木駅に30分ほど早く到着し、お互いの労をねぎらいつつ解散とした。KEさんの百名山完登のお祝いを基軸として設定した山行は、参加された皆さまのご協力によって記憶に残るとも素敵なものになった。感謝、感謝、感謝の気持ちを添えて、心よりお礼申し上げます。

【日本百名山を完登されたKEさんのコメント】 いつからか主人と100名山を目指して山行を楽しんでいましたが1999年、主人と友人と登った剱岳の厳しさを体験して、私には到底「深田久弥の日本百名山」を目指すのは無理とっていました。その後、頼りの主人は足を故障して山に登らなくなり、先輩のTFさんの所属していたTTCに入会したのが2009年10月でしたが、それまで関東周辺の山40座以上を終えていました。それから6年で100名山を終えることが出来ました。TTCのビック山行で私が難関だと思っていた北穂高～湊沢岳～奥穂高に参加し、不得意の岩場を緊張しながらなんとか登り終えてからが、100名山を目指した私の本当の再スタートでした。

それからは毎年、ビック山行に参加したり、自分で計画して仲間を誘ったり、あるいは北海道などはツアーを使つての未踏峰の山行となりました。TTCのビック山行では『飯豊連峰、浅間山、五竜岳、鹿島槍ヶ岳、水晶岳、鷲羽岳、奥穂高岳、笠ヶ岳、空木岳、間ノ岳、荒川三山(東岳)、赤石岳、聖岳、宮之浦岳、利尻岳、八幡平、岩手山』、一方TTCの友人との個人山行では『黒部五郎岳、伊吹山、高妻山、塩見岳、岩木山、八甲田山、十勝岳、羅臼岳、斜里岳、雄阿寒岳』の合計27座に登り、全体の27%がTTCの方との山行でした。そして9月26日に八幡平、27日に岩手山で100名山を完登することが出来ました。リーダーの方々、そしてこれまで一緒に登った皆様には大変お世話になりました。今回、100座目の岩手山の大きな頂上では皆様と大弾幕を掲げて紅葉の中、最高の気持ちで登り終えました。前夜には参加の皆さんから盛大に祝って頂き、感激の極みを味わいました。感想【100の頂に100以上の喜びあり】大袈裟ですが日本100名山達成が私の人生のこれからの自信になっていくと思っております。これまで皆様のご協力があつて日本百名山を成し遂げましたことを感謝申し上げます。皆様ありがとうございました。